

ポラス

# 朝霞市初の建築協定64戸

## 14棟が成約 東武東上線で同社最大

カ月での完売を目指す。同沿線では250棟分の仕入れや、今後3年間で2カ所の新規事業所の開設を計画するなど、引き続き注力する方針だ。

ポラスグループで大規模分譲住宅の企画・販売を手掛ける中央グリーン開発（埼玉県越谷市、中内景太良社長）とポラスタウン開発（さいたま市南区、中内晃次郎社長）が埼玉県朝霞市で共同開発する戸建分譲住宅「パ



レットコート朝霞 カーサ・プランカ（全64棟）の販売が好調だ。現在の1期18棟と2期1次11棟を販売しており、1月末日時点で、既に14棟が成約済みとなっている。

東武東上線沿線での開発ではグループ最大規模の1万693平方メートルの宅地造成地を14年12月に入札で取得し、15年9月に着工した。10層もの高低差を生かし、丘陵に白壁の建物が立ち並ぶスペイン・アンタルシア地方のフリヒリアナ村を街区のデザインの特徴として採用した。



全棟認定低炭素住宅とするほか、朝霞市の要望を受け、同市初の建築協定を導入した。建物の色などの規制によって景観の保持を目指すほか、管理組合を設立し、公園やシンボルツリー

の自主管理やコミュニティの醸成を図る。既に販売開始分29棟は、敷地面積100〜173平方メートルに建物面積89〜113平方メートルの2LDK〜4LDK。販売価格は3380万円〜4780万円。16年10月以来、200件の問い合わせ・事前反響があり、1月28・29日のグラントオープンには80組が来場した。市内・近隣のほか、東京都板橋区や練馬区、町田市、川崎市など東京・神奈川からの問い合わせも多かった。4月初旬に3期6棟、6月初旬に4期13棟、7月下旬に5期13棟の順次販売を計画している。10

公園や室内のデザインモチーフには白壁のアーチを採用している